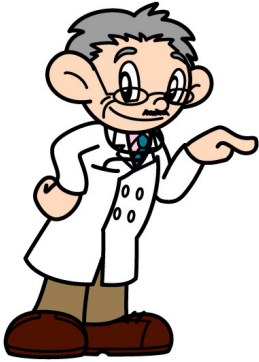


伝染性紅斑（リンゴ病）

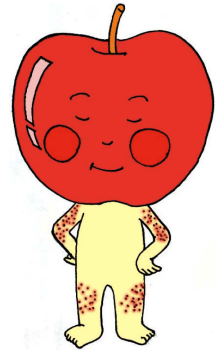


伝染性紅斑、俗に“リンゴ病”とも呼ばれます。両頬にリンゴのように紅い発疹が出る病気で、冬から春にかけて流行します。一度かかれば、再感染はありません。

潜伏期間：1～2週間

好発年齢：5歳から学童期。乳児と成人には少ない。

感染経路：ヒトパルボウイルスB19の接触ないし飛沫感染



《**症状**》急に両頬がリンゴのように（あるいは「たたかれたように」）赤くなるのが特徴で、発疹は上腕や臀部、大腿部に広がりレース状になります。約1週間で消失しますが、数ヶ月間は温度や日光の刺激で再燃することがあります（再感染しているわけではありません）。発疹の7～10日前に発熱や倦怠感、筋肉痛、頭痛などの前駆症状が現れることがあります。

《**診断**》特徴的な発疹から診断します。血液検査で判定することが必要な場合もあります。

《**治療**》通常は治療の必要はありません。

《**予防**》しばしば家族内感染が起こります（15～35%）。感染者が出たら周囲の人もよく手を洗い、ちり紙を使用したら廃棄しましょう。

《**合併症**》紅斑があらわれて診断がつくのは大抵は回復期で、合併症の多くは紅斑より前ですが、遅れて現れる事もあります。関節炎や関節痛（10%未満、膝に多い）、インフルエンザのような高熱、急性脳症、急性片麻痺、紫斑病、重症貧血、心筋炎、妊娠中の女性の感染で胎児死亡あるいは胎児の目の病気が起こることがあります。

※家庭での注意点※ ~~~~~

- ・発疹が出たあとの感染性は低いので隔離の必要はありませんが、妊娠中の女性には近づけないほうが良いでしょう。
- ・まれですが重い合併症もあります。発疹が出て数日間は栄養や睡眠をしっかりと取る、など健康管理に気をつけましょう。
- ・元気があれば入浴は構いません。

「こんなときはもう一度診察を！」



「学校・幼稚園・保育園は？」



・関節痛、紫斑などの合併症が起こっているとき。

・症状が発疹だけで、全身状態が良い場合は必ずしも隔離の必要はありません。